

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 西丸 月美	職名 講師	学位 教育学修士(熊本大学)
----------	-------	----------------

研究分野	研究内容のキーワード
学校保健、健康教育	専門性、養護教諭、不登校、多職種連携

研究課題
<p>養護教諭の専門性について、歴史的背景をもとに連携を中心に考察する。具体的には、不登校・教室外登校の児童生徒に対する支援において、養護教諭と多職種連携について考察する。さらに現在の養護教諭の多職種連携に関する課題等について考察する。</p>

担当授業科目
<p>地域保健学Ⅱ(前期) 基礎看護技術(前期) 学校保健教育法(後期) 養護概説(後期) 教職実践演習(後期) 看護学(後期) 養護実習(通年) 看護臨床実習(通年) 養護実習事前事後指導(三期にわたる) 専門研究Ⅰ(通年) 専門研究Ⅱ(通年)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【地域保健学Ⅱ】 本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習(病院実習)、養護実習の履修要件を満たすための科目である。現代社会における心身の問題と医療の動向について学び、養護教諭としての健康相談の具体的な方法・技術および子どもの健康問題の解決支援及び連携の方法を解説した。また、将来、養護教諭として健康相談の実践ができるように、グループワーク(ロールプレイなど)も取り入れておこなう。授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。また、養護実習での経験したことを事例として、事例検討会を行った。</p>
<p>授業科目名【基礎看護技術】 本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。当科目では、養護教諭として必要な基礎的看護技術、および児童・生徒に身体的健康問題が生じた場合の援助方法に関する知識を養うことを目的とする。感染防御技術を中心とした「健康と環境」、健康状態を判断するための「フィジカルアセスメント」、学校現場で起こりうる状況に対する「応急処置」に関する基礎的知識と看護技術、学校現場で遭遇することの多い健康問題への対応としての「健康問題がある場合の援助技術」について、講義による解説と、現場で役立つ技術の演習を実施した。授業では、看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように具体的な事例や用具を用いて行った。授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践するための工夫を行った。また、技術の定着を確認するために、バイタルサイン測定の実技試験を実施した。</p>

<p>授業科目名【看護臨床実習】</p> <p>本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。机上の学修を実際の医療の現場に参加することにより、より実践的な知識および技術を深めることを目的として実習をおこなう。さらに、医療活動の実態を知ることにより、広く保健医療の一環としての学校保健の在り方について考察し、養護教諭の果たすべき役割を見出せるよう実習をすすめた。</p> <p>3年生の病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、グループワーク等を取り入れより具体的な事例を用いて授業を行った。4年生の看護臨床実習では、学校現場で実際行う保健指導ができるようグループワーク等を取り入れた。グループで歯科保健指導案を作成し、模擬授業を実施した。また、学校現場での事故発生に迅速に対応できるように、BLSについてシミュレーション演習を行った。</p>
<p>授業科目名【学校保健教育法】</p> <p>学校における保健教育の意義及び学習指導要領の改訂の基本方針等について概説し、小・中・高等学校・特別支援学校における保健教育の位置づけ、目標・方針・内容等について解説する。児童生徒等の発達段階に応じた授業成立の要件を学び、指導計画、指導内容、指導方法、指導案の作成、教材研究、評価法について習得する。小・中・高等学校及び特別支援学校における保健教育の授業を展開できる能力を養うことを目指す。</p> <p>授業では、保健教育の理論について学び、学習指導要領に基づき指導案を作成した。授業において一人ひとりが、保健教育の指導案、教材を作成し、10分間の保健教育を行った。模擬授業について、全員で参観し、自己評価・他者評価を行いグループでディスカッションを行った。</p> <p>教育実習で模擬授業を行うための事前準備の段階ととらえ、実践力をつけることができるように工夫した。</p>
<p>授業科目【養護概説】</p> <p>学校保健の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について講義を行った。主な講義内容は、児童生徒等の発達過程や子どもの特性を踏まえた保健室機能と養護教諭の役割、児童生徒等の健康診断、学校感染症予防、疾病管理、学校安全と危機管理、保健教育と健康相談などである。</p> <p>授業では、養護教諭の具体的な活動例を提示し、グループワーク演習を行った。また、養護教諭としての実務経験を踏まえ、実際の健康診断がイメージできるように具体的に解説した。特に保健室経営についての講義では、グループでディスカッションを行い、「私たちの理想とする保健室のレイアウト」、「保健室の掲示物」を作成し、グループごとに発表を行った。</p>
<p>授業科目【養護実習事前事後指導】</p> <p>養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的にこなす機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参加するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互に意見交換させることにより自省的整理や定着化を図ることを期待する。</p> <p>養護実習の事前指導として実習前にオリエンテーションを行い、人権学習・現職養護教諭の講話などを実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、健康診断等が予定通り実施されない学校もあったが、臨機応変に対応できるように具体的な事前指導を心がけた。養護実習後にはグループごとに養護実習についてまとめ、報告会を実施した。</p>
<p>授業科目【看護学】</p> <p>看護の概念、看護の歴史及び養護教諭として必要な看護の基礎理論と養護診断について解説する。各論においては、ライフサイクルに応じた、小児看護、思春期看護、耳鼻咽喉科疾患の看護、眼科疾患の看護、歯科保健などについて解説する。また、学校保健と看護との関係について考察を加える。児童生徒等に多く見られる突発的な傷病について、緊急度の判断の方法及び適切な処置・対応を行うために必要な知識と技術についても解説する。</p> <p>授業では、各論ごとに特徴的な疾患についてプレゼンテーションを行い、基礎的な知識の定着を図った。</p>
<p>授業科目【教職実践演習】</p> <p>この授業は、これまでの教職課程での学習及び養護実習を振り返りながら、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。また、児童生徒等の理解の方法や専門性を高めるためのリソース活用方法など、各演習テーマについて、グループ学習や討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的スキルと資質・能力の向上を目指す。</p> <p>養護実習での課題をグループごとにディスカッションをおこない、課題解決に向けてグループワークを行った。また、養護教諭と多職種連携について具体的な事例を通して演習をおこない、学校現場における実践的な力</p>

<p>を身につけるために授業の構造を工夫した。多職種との連携するための実践力を高めるために、グループワークを多く取り入れた。さらに、「現職の養護教諭の講話」、「性に関する指導」について外部講師を招き、実践力を高めるための工夫を行った。</p>
<p>授業科目【養護実習】</p> <p>養護実習を通して養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力を培うことを意図している。小・中・高等学校において3週間の養護実習を体験する。実習内容は実習校の実状に応じて計画する。養護教諭の職務内容については実習校の重点的な保健活動あるいは実習期間中の行事等を考慮する。但し実習機会のない項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保健活動全体の概要を把握できる養護実習にできるように事前、事後の指導を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実習期間が変更になる学生が多かったが、全ての学生が実習を終了し、実習報告会を実施した。</p>
<p>授業科目【専門研究Ⅰ】</p> <p>専門研究Ⅰでは、テーマを設定し、先行研究等の文献の中から興味のある文献について提示し、グループでディスカッションを行った。さらに、各自が興味のあるテーマを設定し、研究ができるように指導を行った。</p> <p>また、教員採用試験について各自が過去問題を持ちより情報交換を行い、問題のポイントを解説し、理解が深まるように授業内容を工夫した。さらに、保健室経営や救急処置について学び、より実践的な学習ができるようグループワークを取り入れるなどの工夫を行った。</p>
<p>授業科目【専門研究Ⅱ】</p> <p>専門研究Ⅱでは、専門研究Ⅰでの研究をさらに深めるために、各自がテーマを設定し、プレゼンテーションを行った。養護教諭の視点から専門性を深め、少人数でのグループワークを通して、コミュニケーション能力や表現力の養成も工夫した。また、2年間のみとめとして研究レポートの作成し、研究のみとめをおこなった。</p> <p>さらに養護教諭としての実践力を高めるために、学校現場で養護教諭として活躍する卒業生の保健室を訪問し、保健室経営や児童生徒への対応について学びを深めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本学校保健学会員		平成21年4月～(現在に至る)
日本教育心理学会員(現在に至る)		平成21年9月～(現在に至る)
日本教育保健学会会員(現在に至る)		平成21年6月～(現在に至る)
日本人間性心理学会会員(現在に至る)		平成22年6月～(現在に至る)
日本教育カウンセラー学会員(現在に至る)		平成26年8月～(現在に至る)
日本学校心理士会学会員(現在に至る)		平成27年1月～(現在に至る)
日本アロマコーディネーター協会会員(現在に至る)		平成27年1月～(現在に至る)
日本養護教諭教育学会 第23回学術集会 熊本大会 実行委員 事務局		平成27年10月
日本産業カウンセラー協会学会員(現在に至る)		平成28年2月～
日本養護教諭教育学会 第28回学術集会 熊本大会 実行委員 事務局		令和元年4月～令和2年3月

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 養護教諭、看護師、保健師のための 新版 学校看護 —すべての子供の健康実現を目指して—		2022.	東山書房	<p>①養護教諭が職務を遂行するために欠かせない基礎的な看護学の知識や技術をわかりやすく解説した専門書である。</p> <p>②監修者名 編著者:遠藤伸子・池添志乃・籠谷恵</p> <p>③担当部分 第4章 急性期にある子供と家族の理解と援助 2 多様な急性期症状の理解と援助 2)腹痛 (P178～P182) 4)便秘 (P184～P187) 総頁数P. 319</p> <p>④B5判</p>

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期期間等
日本養護教諭養成大学協議会 福岡県高等学校養護教諭研究会	評議員 講師	2019年4月～現在に至る 2022年度

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員会委員 2017年4月～2023年3月31日 教員免許状更新講習プロジェクトリーダー 2019年4月～2022年3月31日 教員免許状更新講習講師 2017年4月～2022年3月31日 キャンパスハラスメント委員 2020年4月～2023年3月31日